安威ぽっぽ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は常に理念の共有に努め、朝のﾐｰﾃｨﾝｸﾞ、月1回のスタッフ会議、重要連絡事項の回覧、連絡帳などで理念の共有を実践している。事業所が地域の中で孤立することなく、様々な年齢層が訪れ、こちらからも出て行き、交流している。	事業所の空気がゆったりと流れている。一人ひとりの入居者が出来るだけ自分らしく日々を過ごせるように職員が一所懸命頑張っている。	入居者の表情、管理者を筆頭に職員の態度、熱心さで事業所の理念が浸透していることがわかる。玄関、２階の目立つ場所に掲示されて更にわかりやすくして共有されたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者とともに、地域を散歩している。庭の花や植物を見せて頂いたりして住民の方たちと触れ合える機会をもつようにしている。自治会に入れてもらい敬老会などのお誘いをしてもらっている。	認知症サポーター養成講座における知識を地域の人たちにも広げていきたいと管理者は考えている。自治会にも入会し、徐々に地域の中に溶け込んでいけていると感じている。	認知症や高齢者の介護に関しての知識を基に周辺の人達に今後も更に貢献し、頼りにされる存在になっていってもらいたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な地域の交流会に積極的に参加するようにし、ボランティアなども受け入れをしていく。外部の方々を招き、演芸、楽器演奏を披露して頂いてる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや自治会長、福祉委員長や、家族になどに、アドバイスを頂いている。地域の人達に知ってもらうためにもっとアピールするようにする。	毎回運営推進会議が始まる前に、参加者と入居者の触れ合いの時間が持たれる。月に２回の会議ではホームの現状報告の他意見交換も活発に行われている。	会議録のフォーマット化もされ、ますます内容の濃い会議になることと期待している。地道な継続が地域の理解、市との連携、家族との意思疎通をさらに深めていくものと期待している。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の窓口や係長などに、様々な相談にのって頂いたり、助言を頂いている。介護相談員の方にも来て頂いている。推進会議にも参加してもらうようにお誘いをする。	茨木市の担当者とは主に電話により相談、質問などしている。市のサービス部会や連絡会では市の職員も交えて他の事業所との交流がある。	現在事業所は出来る限り地域の高齢者やその家族にとってきめ細かい支援をしておられるが、マンパワーに頼りすぎることにならぬよう茨木市との連携を深めて相談する事で、市の役割と事業所の役割を確認されたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	看護師を中心に研修し、常に職員が正しく理解出来るよう、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。鍵を掛けなくても転倒や事故が防止出来るよう、常に職員が目の届く位置に居る様心がけている。一人で外出しそうな時は、一緒に出かけている。	１階の玄関の施錠はしていない。出来るだけ自由に日中過ごせるように工夫している。認知症に伴う諸症状に対して、管理者がすぐに指示を出すのではなく介護者皆で考え、納得して丁寧な支援をしている。	入居者の気持ちを推察し、気持ちに寄り添って考えているのか、それとも自分達の楽な方に行っていないかと、どんな場面でも、見極めながら支援している。管理者、職員共に温かく見守り介護している。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	市内の研修会で学び、それをもちかえり、管理者と職員が内部研修会で、話し合ったり、研修の内容を全員に伝達している。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や、本部全体研修に参加し、様々な研修会に参加できるようにする。定期的に内部研修会を行い、研修の内容を全員で共有できるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に「お試し利用」を勧めている。見学も何度も行い、入居者とその家族に、現利用者と共に昼食をしていただいたりしながら、説明納得した上で利用していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員、入居者と共に、家庭的な雰囲気を作り、自由に発言できる空気を作り、改善していっている。	現在、意見箱の設置はなく今後に期待するところであるが、日常の細かい要望など電話も含めて口頭で聞いている。２４時間体制で家族からの意見要望、質問等の受け入れ態勢が出来ている。	日々の細かなこと、庶務関係での充実を図るためにも意見箱の設置と受付簿、改善の記録を検討されたい。精神的な支援においては管理者、職員のマンパワーに支えられ、家族の気持ちもお聞きすることで入居者との関係を改善に導いている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	朝礼やスタッフ会議など、日々、お互いに意見を出し合い、入居者の生活改善に役立てている。	職員同士や管理者に対しても意見が言いやすい雰囲気で、日常の介護の場面でも意見を出し合っている。夜勤と日勤の間の連絡ノートで備品の管理をスムーズにできるようになったのも職員の意見の反映である。	介護職員が仕事をただこなすのではなくそれぞれの立場での改善、向上について考えている。管理者とともに思いを共有し、入居者の生活と職員の就業環境の充実に向けて意見交換を今後も活発に行われたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は管理者や職員と、なるべく多くの時間を共にするよう努力している。職員は入居者と一緒に習字や絵を描くなど、職員も楽しみを持ち過ごしている。おやつの時は入居者と一緒にお茶を飲みながら談話している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、積極的に参加を促し、ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ時に報告している。資料を活用し伝達をしている。随時内部研修会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市や地域主催の研修会にもさんかし、また、入居者の移転時などでは、相互訪問をするなど、交流を保っている。		

Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お試し利用時に、職員とマンツーマンの時間を取り、充分話を聞いている。また、入居に際し、不安が無いよう「いつでも電話対応など可能」ということで、安心してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の自宅に赴き、家族とも一緒に考え、対応している。利用者の要望に、いつでも沿えるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の自宅に赴き、家族とも一緒に考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、共同作業や出来る事は自分でしてもらい、皆で支えあう家族のような関係を築いている。また、食器洗い、洗濯物干しや、たたむ等の手伝いを、職員と共にして貰っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などの時、極力家族と共に話し合い、緊密化に努めている。電話相談にも常時応じて、安心感を持ってもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのなじみのあるスーパーや公園などへ行ったり、住んでいた家の近くに、車でドライブをしたりしている。	入居者の希望する場所である馴染みの駅前や近所のお寺などにドライブしたりしている。入居者同士が共に暮らす家族に近い存在になってきていて、馴染み、気遣いあって暮らしている。お正月も外泊を希望される方は少なかった。	記憶が曖昧になっていく中で以前親しんでいたことや大好きだった場所を聞き出す事の困難さはあるが、温かい支援をこれからも期待している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性等もあり、座席の位置なども考えて生活してもらっている。出来ない事がある入居者には、他の入居者が助け舟を出したり、和気藹々とした関係が築かれるよう心配りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、他の施設に入られたりしたときの面会、残された家族の様子を伺いに行くなどしている。		

Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認し、個々にサービスを取り入れている。毎日の生活の中で自然に出てくる思いやりの精神を大切にしている。	入居者の事を知るために出来るだけ手を出さず見守り、何をされたいのか、どうすれば安心されるのかを考える。家族同様の目線で思い遣りを持ち支援している。	入居者だけでなくその家族の気持ちにも寄り添う温かい支援を今後も期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	サービス開始時に、これまでの暮らしについては情報を得るが、日々コミュニケーションをとる中で、新たな情報についても把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少人数ということもあり、日々の状況把握は密に出来ていると思っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ・職員・関係者等が入居者宅に出向いたり、家族の方に来てもらった時などに、家族とも話し合った上で、介護計画を立てている。必要な場合は、主治医にも出席をしてもらう。	家族、入居者の意向を元に管理者、ケアマネージャー、介護職員、必要な場合は医師や看護師で会議を行いケアプランを作成し、半年ごとに、また変化のある時は随時見直しをしている。	今後もきめ細かい心遣いで入居者に寄り添った温かい支援をチームで確認しながら継続されたい。記録の整備についてはケアマネージャー中心に更に充実を図られることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表に、日々の介護実践を記録し、責任者名を記入している。また、共通のノートを作り、気付きや伝達事項を書き入れ、共通認識を持つようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	精神状態や身体障害の程度に合わせて移動や入浴介助など考えてしている。また、通院に同伴したり、事業所に往診に来てもらっている。必要時医師の指示を受け、看護師が点滴や処置を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や組長の方に相談したり、近隣の方から暖房器具や飾り物などを頂いたりしている。消防署からの避難訓練の指導をしてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	２週間に１度、事業所に往診に来て貰っている。電話で相談したり、必要時は臨時に往診も来て頂きお世話になっている。必要な時は病院からの訪問看護にも来てもらう。	入居前からのかかりつけ医を引き続き利用している方もおられる。ホーム提携医による月２回の往診と訪問看護師の毎週の訪問、また必要時には整形外科・歯科の往診もある。	今後も本人や家族が希望するかかりつけ医の受診となるよう、希望を大切にされたい。各医療機関との連携（特に投薬での）も密にされたい。

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師が在籍し、常に適切な相談が受けられる体制になっており、かかりつけ医や医療機関との橋渡しをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会時に、医師や看護師になるべく話を聞き、情報を頂いている。退院後、直ぐに対応できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、医師の意見と本人家族の要望に応じ話し合い、了承をいだたき、医師、家族、施設側で密な話し合いをしていきながら納得していきながら進めている	入居説明時に看取りをする事は伝えている。過去５名を看取っている。その折には職員は何度も話し合いを持ち、疑問を解決しながら提携医である医師の指導の下、５名の看護師・家族の協力を得、看取りに至った。看取りに関しての書類を用意し、家族からは同意書と確認印を頂いている。	医師の助言を得、職員全員で不安や疑問を取り除きながら看取り支援の体制が整えられたとの事。法人の温かい姿勢に触れることが出来た。その折の記録（やって良かった事や反省点など）を残しておくと、次回に向けての更に良い支援材料になるのではないかと思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に研修し、転倒や薬の管理等での事故防止に心がけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの訓練を定期的に行っている。内部研修の充実にも務めている。	３月と９月、消防と協働で訓練を行っている。出火時には火元から離れたベランダに避難、室内にいる時はドアを閉め窓際に座っている様消防から指導を受けている。災害時避難場所は、安威小学校となっている。	災害時の食品は本部で備蓄しているとの事であるが、混乱時に困る事のない様数日分の食料はホームで備えておかれたい。夜間の災害対策を特に強化し、通報や避難、初期初動の方法を職員全員が身に付けておかれたい。

Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修や朝礼、スタッフ研修などで、対応の仕方を学習し、言葉がけ時の気になる言葉を話し合い、時に指摘したりしている。	管理者は“言い分を押し付けずに、また自分に置き換えて考えてみる様に”と職員に指導している。トイレや入浴時の対応、個人情報を口外しない等朝礼などで話し、職員全員で共有している。	今後も年長者を敬い、嫌な思いや恥ずかしい思いをさせないという気持ちで支援を続けていって頂きたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩、買い物、塗り絵や裁縫など本人の希望や残存能力に沿うようにして活動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	歩行訓練のため、散歩などは積極的に取り入れているが、本人に確認を取ってから出かけている。お弁当やおやつを持っていったり、季節の花などを楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前で髪をといたり、着替えの際に服の組み合わせを一緒に考えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	アレルギーや嫌いなものは好みに合わせた献立にしたり、材料の下ごしらえや、後片付けが出来る人には、職員と一緒にして貰っている。	業者から食材とレシピのみが届き、職員が当番制で調理し提供している。朝食はパン食で、副食は前日の食材を利用している。入居者の状態に合わせた介護食が提供できている。	調理に長けた職員が主に担当している。いつでも美味しい食事が提供出来る様、他の職員にも是非技術の伝授をお願いしたい。朝食は一日の活力源である。卵・野菜・果物を常備し、一日の良いスタートを切って頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し把握している。看護師を中心に職員全員で見守り、援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の検診を受けている。職員が見守り援助し、毎食後、全員歯磨き、義歯の人は外して洗浄、夜は洗浄液に浸けて保管している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員全員で自立に向けた支援をしている。トイレ行きを促し、なるべく自力でトイレに行き、可能な限り、自力で出来るように仕向けている。	日中は排泄表にて２時間おきに声かけを行っている。トイレでの排泄を心掛けて支援している。	自立してトイレに行かれる方は３名おられる。筋力や脚力を鍛える体操を取り入れ、現状を維持出来る取り組みに期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師を中心に勉強会をもち、実際に役立てている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	看護師を中心に事故に気をつけた楽しい入浴を心がけている。各人の、その日の体調に合わせて、入浴をして貰っている。	週２回を目安に、午前中足湯を取り入れて支援を行っている。１日３人の入浴である。ゆず湯等で季節を味わい楽しんでいる。湯替え・浴槽洗浄はその都度行っている。	入居者の今までの入浴の仕方を尊重しながら、引き続き楽しい入浴タイムとされたい。

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の睡眠状況や疲労の状態に合わせて、随時昼寝や休息をとってもらっている。昼夜の活動の区別をはっきりつけて、夜間気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に介護職全員が服薬について研修を受け、理解し、服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事や洗濯物の手伝いの役割を持ってもらったり、レクレーション週間予定表を作り、毎日楽しみごとや気分転換をしてもらい、張り合いのある日々を過ごしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体力に応じた距離の散歩をしている。季節に応じて、花見をしたり、ドライブを行っている。	入居者と職員１対１で、順番での形で日常的に近所への散歩を行っている。薔薇や彼岸花等を見に車での外出やドライブなど、季節を通じて楽しんでいる。	坂道を下るとお寺もあり、道端の花を眺めるのに良い環境にある。足腰の鍛錬の為また五感刺激の為にも、良い空気を吸いながら是非毎日の外出を実行されたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っており、散歩やバザーなどへ職員と一緒に行き、買い物をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が出来ない場合は、手伝い、電話を掛けられるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内全体バリアフリーにしている。玄関の段差はスロープにしている。採光も良い。広い廊下は車椅子でも通りやすい。	建築に於いては、２階をグループホーム用として設計・配置したとの事。リビング兼食堂はやや手狭であるが、家庭的な雰囲気が感じられた。掃除は日勤者が毎朝９時からスプレー消毒を含み行っている。	所々やや雑然とした箇所が見受けられた。リビング洗面所の補修箇所も早々の対処が望まれる。大人としての寛げる空間作り（飾りつけ等）に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂では好きな場所に座って貰っている。多目的室や広い廊下で人と離れて静かに過ごしてもらえるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや本人の好みのものを持ってきてもらっている	馴染みの物等の持ち込みで、入居者毎の居室の様である。各居室には洗面所が設置されている。起床後は布団を窓枠に掛け、シーツの洗濯も定期的に行われている（記録表を廊下に貼付）。	家族には時計とカレンダーの必要性を説明し、各居室に備える様にして頂きたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者同士の助け合いなど、積極的に自分でできる事を支援している。		

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願　、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の３分の２くらいが ③職員の３分の１くらいが ④ほとんどいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての入居者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○	①ほぼ全ての入居者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての入居者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての入居者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の２くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての入居者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の３くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての入居者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の４くらいが ④ほとんどいない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に１回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の３分の２くらいが ③職員の３分の１くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての入居者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の４くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の３分の２くらいが ③家族の３分の１くらいが ④ほとんどできていない